

[別紙 2]

審 査 の 結 果 の 要 旨

氏 名 大 溪 俊 幸

本研究は外傷後ストレス障害(PTSD)の治療法の一つとされる眼球運動による脱感作と再処理 (Eye movement desensitization and reprocessing ;EMDR)による治療効果と脳機能の変化を明らかにするため、質問紙と面接による症状評価を行うとともに near-infrared spectroscopy (NIRS)を用いて EMDR に準じた課題施行中の前頭前野における脳酸素代謝の変化を測定したものであり、下記の結果を得ている。

1. 健常者を対象として EMDR に準じた情動記憶想起と眼球運動を同時に行う課題を用いた予備的実験を行った結果、情動記憶想起と眼球運動を同時に行う課題によって記憶の想起内容が変化し、情動記憶想起を単独で行った場合に比べて前頭前野の脳酸素代謝が有意に変化することが示された。
2. PTSD 患者を対象として EMDR 治療を施行したところ、改善群では治療前と比較するとトラウマ記憶想起に伴う苦痛の軽快に伴って PTSD 症状、不安症状の有意な改善が見られることが示された。
3. PTSD 患者を対象としてトラウマ記憶想起と眼球運動を同時に行う課題を施行すると、EMDR により改善しなかった症例では前頭前野の脳酸素代謝に一貫した傾向が見られなかったのに対して、改善群ではトラウマ記憶想起を単独で行った場合に比べて記憶想起と眼球運動を同時に行う課題により前頭前野の賦活が有意に抑えられることが示された。
4. EMDR により改善しなかった症例では治療前から治療終了回までトラウマ記憶想起を単独で行った時の前頭前野の脳酸素代謝に一貫した変化が見られなかったのに対して、改善群では治療前と比べてトラウマ想起に伴う苦痛軽快後に前頭前野の賦活が有意に抑えられることが示された。

以上、本論文は NIRS を用いて前頭前野における脳酸素代謝を測定することにより、ト

トラウマ記憶想起による前頭前野の賦活が EMDR による治療で行われる記憶想起と眼球運動の同時遂行を繰り返すことにより軽減されること、EMDR によりトラウマ記憶想起に伴う苦痛が軽快した後ではトラウマ記憶想起を単独で行っても治療前と比較して前頭前野の賦活が抑えられることを明らかにした。本研究はこれまで未知に等しかった EMDR 施行中の脳機能の変化と EMDR による改善に伴う脳機能の変化について生物学的指標を用いて解析することにより、EMDR の治療メカニズムの解明に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。